第2次亀山市消防力充実強化プランに関する実績等報告書(令和3年度)

(消防本部消防総務課)

■計画の基本情報

■計画の基準	<u> </u>		
計画期間	H 29 ~ R 3	年度	
位置付け	画」の消防分野に 基本計画との関連	おける計画として位置付けて	づく消防計画及び「第2次亀山市総合計 ている。また、第2次亀山市総合計画前期 なまちづくりの推進」と深く関わり、⑤消防
目的·概要	から保護し、災害に		·図り、市民の生命、身体及び財産を火災 こ、将来を中長期的に展望し、亀山市消 定したものである。
計画の骨格	基本市民の安心を支える消防力の充実強化	(基本方針1)	【基本施策】 1_消防施設・設備の整備 2.職員の人材育成 3.消防職員の適正配置 4.災害対応力の強化 5.他市消防本部等との連携強化 1.地域消防力の強化 2.防火思想の普及啓発 3.住宅防火対策の推進 4.事業所等の安全対策の推進 1.増加する救急事案への対応 2.市民による救命率の向上 1.消防団の活性化 2.消防団の再編 3.消防団の教育訓練

■成果指標

成果指標名 単位			現状値	実績値 (R3)	目標値
1	「別紙のとおり」				
2					
3					
4					
5					

■計画の実績等

■計画の実績等					
取組実績	消防大学校等の各種研修派遣により、消防・救助隊員の資質向上に努めた。計画的に救急救命士を養成したほか、各種研修派遣により、救急救命士の処置拡大への対応に努めた。津市、鈴鹿市と消防指令センターの共同整備に向けた調査研究を行った。救急車1台を更新するとともに防火水槽2基を設置した。防火対象物や危険物施設への立入検査を計画的に実施した。市広報媒体を活用して消防団活動をPRし、入団しやすい環境を整えた。小型動力ポンプ付普通積載車2台を更新するとともに雨衣を計画的に更新した。				
成果	消防大学校等への職員派遣による教育指導者の養成等により、消防・救助隊員の 資質向上を図ることができた。計画的に救急救命士を養成することができた。決 各種研修派遣により、救急救命士の処置拡大に適切に対応することができた。津 市、鈴鹿市と消防指令センターの共同整備に向けた調査研究を行うことができた。 救急車1台を更新し、防火水槽2基を設置することができた。防火対象物や危険物施設への立入検査を計画的に実施し、火災等の発生や人命危険を未然に防ぐための体制づくりを推進できた。市広報媒体を活用して消防団活動をPRし、入団しやすい環境を整えることができた。小型動力ポンプ付普通積載車2台を更新しするとともに雨衣を計画的に更新し、より安全に災害対応等を行うための施設、装備を充実させることができた。				
総合計画 推進への 寄与度	第2次亀山市総合計画前期基本計画 1.快適さを支える生活基盤の向上 (6)安全・安心なまちづくりの推進 【成果指標】 現状値 目標値 R3年度 ・火災出動に関する平均所要時間 14分51秒、12分00秒、17分12秒 ・救急出動に関する平均所要時間 41分06秒、37分00秒、42分24秒				

反省点·課題

本プランの目的を達成するために掲げた基本施策の取組を推進したが、前期基本計画の成果指標として設定した火災・救急出動に関する平均所要時間を、昨年度実績から短縮することができなかった。個々の取り組み内容を精査し、今後に繋げていく必要がある。

本プランは令和3年度で終了となるため、令和4年度からスタートした第3次亀山 市消防力充実強化プランにおいて、個々の取り組みを着実に推進するとともに、新 型コロナウイルス感染症対策等社会情勢の変化に応じ、必要な取り組みを随時検 討していく必要がある。

■成果指標一覧表

成果指標名 単位		現状値	実績値 (R3)	目標値	
1	防火水槽設置数		440	441	440
2	救急救命士搭乗率		99.9	99.9	100
3	中型免許取得率		79	80	93
4	4 消防用設備設置率		52	52	53
5	防火診断実施世帯数	世帯	0	0	800
6	住宅用火災警報器設置率		79.0	68.0	100
7	⁷ 被搬送者軽症率		53.2	50.9	48
8	特定行為評価適切率	%	100	100	100
9	バイスタンダー心肺蘇生法実施率	%	47.6	31.42	50
10	消防団員充足率	%	95.9	94.0	100
11	消防団協力事業所認定数		11	14	16
12	防火衣配備率	%	100	100	100